



Newsletter 2025 No.1

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第69号 発行 2025年8月6日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之
〒181-8612 三鷹市下連雀 5-4-1 杏林大学外国語学部内
Tel 0422-47-8000 (代表) Fax 0422-47-8077 (共用)
email: jimmu@jsthe.org ◇学会 URL : <https://jsthe.org>

◇編集・発行人：米盛 安奈
(oshimaan@daishodai.ac.jp)

【新会長就任のご挨拶】

日本観光ホスピタリティ教育学会
第11代会長 中村 哲（玉川大学観光学部 教授）

1. はじめに

このたび、日本観光ホスピタリティ教育学会の第11代会長に選出いただきました、玉川大学の中村と申します。身に余る大役ではありますが、この任務を与えられたことを光栄に存じます。本学会は2002年の3月に第1回の大会が開催され、設立から24年目に入りました。私が11代の会長となりますが、歴代の会長の先生方のお名前と業績を拝見しますと、これを私が引き継ぐことはたいへんな責務であると実感しております。

2. 過去7年間の学会の発展

私は理事として直近で3人の会長の先生にお仕えしました。その業績を見てまいりますと、小畑力人先生（第8代会長、2018年度～2020年度）にはコロナ禍で学会が右往左往しそうなところを強い信念を持ってご指導いただき、難局を乗り越えることができました。宍戸学先生（第9代会長、2021～2022年度）は新規事業委員会を立ち上げられ、学会活性化のための様々な取り組みをされ、そのなかでグループ研究助成制度が定着し、学会における研究活動がより活発なものとなりました。また学習指導要領改訂にともなう、高等学校商業科における「観光ビジネス」の教科新設の時期と重なり、多くの高校の先生方にご参加いただくことができました。藤田玲子先生（第10代会長、2023～2024年度）は国際化推進ワーキンググループを立ち上げられ、学会大会における英語セッションの実施、国際化に関するワークショップ

の実施と成果をあげられました。その間に全国大会の研究・教育実践の発表数も飛躍的に増加しました。この3人の先生方をはじめ代々の会長の先生方の業績を引き継いで、どのような方向性を出すのかは理事会の先生方と相談していきますが、現在、順調に進んでいる方向性をさらに発展してまいります。

3. 今後の本学会が考えていくべきテーマ

観光ホスピタリティ教育に関して、この学会において考えていくべきテーマが4つあると考えます。

第1に、日本における観光ホスピタリティ教育の意義を改めて示していくことです。コロナ禍前までに、各地の大学で観光系の学部・学科が開設され、インバウンドの進展もあって日本では一定の存在感を示してきました。パンデミック中は多くの高校生が観光系の学部・学科への入学を敬遠する動きがありましたが、全体としてはようやく元に戻ってきたように見えます。しかしながら、大学によっては観光系の学部・学科の存続を検討するところも出てきております。一方で、政府や企業が大学の観光ホスピタリティ教育に期待していることと、大学が取り組んでいる現状にギャップがないわけではありません。このような状況を踏まえて、本学会において、多くの会員の皆様と今後の観光ホスピタリティ教育の存在意義を世間に示していきたいと希望しております。

第2に、新しい動きへの対応です。ご認識のとおり教育を取り巻く環境が大きく変わってきています。また、ビジネスの現場、社会から教育に期待されること、求められることが変化するでしょう。生成系AIが急激な発展をしていますが、これが教育や研究に及ぼす影響は学会のどこかで議論する必要があります。データサイエンス、文理融合・文理横断教育による学生の資質育成の必要性が指摘されていますが、これに観光ホスピタリティ教育はどう対応していくのでしょうか。国際化推進も重要なテーマですが、高いハードルがあります。みなさまの専門性と経験を学会で共有していただく機会を設けると同時に、時には外部の専門家をお招きして、知見を高めていきたいと考えております。

第3に、外部との連携です。この学会においても設立以来、継続的に議論されてきていますが、観光ホスピタリティ教育において外部との連携が重要と認識されていることの証左です。大学と高校の接続、教育機関と企業・自治体・地域団体との連携など、切り口は多様ですが、教育としての設計の仕方、外部との関わり方などについて、アップデートしていく必要があります。

第4に、多様な教育の機会に目を向けることです。本学会ではどうしても現役の学生・生徒の教育に目がいつてしまいます。しかしながら、最近の大会発表のテーマを見てみると、現役社会人のリカレント教育に関するものもあります。教育機関も今後対応していく必要がある課題かもしれません。

4. 本学会の存在意義は何か？

本学会の特徴ですが、観光ホスピタリティ教育に関わる様々な皆様が会員でいらっしゃる事です。所属を見ても、大学や高等学校など教育機関の教員、企業、行政や地域団体の関係者、これから教員・研究者を目指す大学院生などさまざまです。教員の先生方を見ても、アカデミックな研究者だけではなく、実務家教員の先生方も会員になられています。英語で授業をされている先生もいます。

その上で本学会の存在意義ですが、私見とはなりますが、「立場や経歴を超えて、観光ホスピタリティ教育に関わる人が集まり、教育というテーマに特化して成果の共有、議論や情報交換を行い、ネットワークを広げる場を会員に提供すること」にあると理解しております。この取り組みを通して観光ホスピタリティ教育の発展、関わる人材の育成、社会への貢献につなげていくことも重要と考えます。

5. おわりに

これからの2年間、微力ではありますが、副会長の福本先生、古本先生、森越先生をはじめ理事の先生方と協力して、学会の維持と発展に努めてまいります。会員の皆様のご指導とご鞭撻、そしてご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【第24回全国大会報告】

第24回全国大会を、2025年3月8日(土)・9日(日)の2日間にわたり「大阪・関西万博を契機とした新たな観光ホスピタリティ教育のデザイン」をテーマに、立命館大学大阪いばらきキャンパスにて開催し、おおよそ80名程度の参加者を迎えて盛況のうちに終了致しました。

初日は「研究報告・教育実践報告」「シンポジウム」「懇親会」を行いました。「研究報告・教育実践報告」は、前回に引き続き英語での発表セッションを設け、日本語・英語、合わせて28件の発表がなされました。「シンポジウム」では、基調講演を中島さち子氏(大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー/株式会社 steAm 代表取締役)にお願いし、「大阪・関西万博「いのちの遊び場 クラゲ館」の旅路～人や社会が動く：万博が開く観光の可能性～」をテーマにお話いただきました。これを踏まえ、西村典芳氏(流通科学大学人間社会学部 学部長)のコーディネートによるパネルディスカッションを、笠井敏光氏(兵庫県立兵庫津ミュージアム 館長)、今井博司氏(日本経済新聞社 大阪・関西万博室 企画委員 シニアプロデューサー)、大串恵太氏(追手門学院大学共通教育機構 特任准教授/本学会理事)をパネリストに迎えて開催し、基調講演講師の中島氏からもコメントをいただきました。2025年の観光面での大きなトピックである大阪万博の

状況を踏まえた観光ホスピタリティ教育の今後について、学びの多い場となりました。シンポジウムの内容は機関誌に収録予定です。

2日目は「ワークショップ」を開催しました。国際化推進ワーキンググループによる新企画「CAMPFIRE Session: Internationalization of tourism and hospitality education」を行った後、「観光ビジネス導入後の教育課題と今後の展望(高大連携)」「観光に関わる専門英語教育と専門日本語教育(ESP/JSP)」「観光・国際学系(学部学科)の現状と課題」「観光ホスピタリティ教育における大学での授業実践：観光心理学・観光行動論を事例として」「観光ホスピタリティ教育におけるデジタル化」をテーマとした分科会を実施しました。いずれのプログラムも観光・ホスピタリティ教育を考える上で示唆に富んだ内容となり、活発な議論がかわされました。

なお、第25回全国大会は、2026年3月7日(土)～8日(日)に立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)において開催予定です。

【研究会案内】

第1回研究会を2025年9月6日(土)15:00-17:00に東京都内で開催することを予定しております。詳細は別紙およびメーリングリストを御覧下さい。

【理事会報告】

<2024年度第6回理事会>

日時：2025年3月8日(土)11:00～12:00

リアル会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

オンライン会場：会議システム Zoom

出席：藤田、中村、福本、岩田、大串、澁谷、鈴鹿、鈴木、千葉、中井、古本、森越、米盛、高橋、大島、峯俊
欠席：板垣、坂本、丹治、難波、野口、森園、橋本

〔会長挨拶〕

〔報告事項〕

議事1. 会務報告(各委員会・事務局より)

編集委員会の中村委員長より、機関誌第18号の進捗状況について報告がありました。

議事2. 2024年度全国大会について

古本理事より大会申込者数について報告がありました。

大会実行委員長の峯俊理事より大会プログラムの説明と挨拶がありました。

議事3. その他

事務局の古本理事より、旅費補助について説明がありました。経費の全額が研究費で賄われていない場合、1回分の旅費の一部が補助対象となります。旅費補助を希望

する場合は、3月31日までに事務局に申請をしてください。詳細は理事会後メーリングリストにて送信されます。

古本理事より、昨今支払調書の作成依頼がなされるようになり、事務局にて対応している旨、報告がありました。今後も謝金額が高い場合に支払調書が必要となることがあるため、税理士への委託などの対応を検討していくとの報告がありました。

古本理事より次期理事会メンバーの編成スケジュールについて説明がありました。今後、会長により選ばれた次期理事会検討メンバーにより、次期理事の検討を行います。

〔審議事項〕

議事 1. 2025 年度グループ研究助成採択結果について

新規事業委員会の千葉委員長より、2025 年度グループ研究助成の審査結果について説明がありました。審査の結果、新規事業委員会では 2025 年度に 1 件「ESG 経営を担うホテル人材育成に関する研究」(2 年間) の申請を許可する判断がなされ、理事会にて採択が承認されました。

併せて、2024 年度採択の「大学での「観光心理学／観光行動論」科目の現状」は 1 年での申請であるものの、研究代表者より 1 年の延長の申し出があったため、今後新規事業委員会にて審査を行い、メールにて付議をすることが報告されました。

1 年間の助成で 2 年目への継続希望があった場合の対応を整理する必要があると指摘がありました。

議事 2. 投稿原稿の締め切り時期の変更に関する件 (第 19 号以降)

編集委員会の中村委員長より、機関誌第 19 号の投稿原稿提出締め切りを 4 月 30 日から 6 月 30 日に変更すること、第 20 号以降についても同様の日付を締め切りとする旨提案があり、承認されました。

グループ研究助成にて義務付けている報告書の機関誌への提出時期については、編集委員長と新規事業委員長で協議していくこととなりました。

議事 3. 2025 年度総会について

6 月 15 日 (日) を第 1 候補日として、東武トップツアーズ社屋にて開催可能であるか鈴木理事が確認することとなりました。基調講演・シンポジウムについては、研究事業委員会に一任されることとなりました。

議事 4. 退会審査・報告

正会員 8 名の退会が報告されました。

議事 5. その他

海外会員への対応について協議がなされました。海外会員への対応として、品質の保証ができないことの了解を得たうえで、シンポジウム等のアーカイブを配信することが挙がりました。そのための撮影機材(タブレット)を事務局で購入する予定です。ニューズレターや大会案内などは、国内郵送費の高騰も加味し、今後は電子化を進めることが確認されました。電子化への対応プロセス

は総務委員会にて検討することになりました。

<2025 年度第 1 回理事会>

日時：2025 年 5 月 17 日 (土) 17:00～17:45

オンライン会議システム Zoom

出席：藤田、中村、福本、板垣、岩田、大串、澁谷、鈴木、鈴木、丹治、千葉、難波、野口、古本、森越、米盛、高橋、橋本、大島知典、峯俊

欠席：中井、森園

〔会長挨拶〕

〔報告事項〕

議事 1. 会務報告 (各委員会・事務局より)

(1) 編集委員会

中村委員長より、第 18 号の編集状況および、第 19 号への投稿状況について報告がありました。

(2) 新規事業委員会

千葉委員長より、グループ研究助成採択者に対するフォーラム原稿の依頼について、進め方の説明がありました。

〔審議事項〕

議事 1. 2025 年度総会・シンポジウムについて

(1) 総会

古本理事より、総会の議事次第について説明がありました。併せて、当日の役員改選の流れについても説明がありました。

(2) シンポジウム

研究事業委員会の鈴木委員長より、シンポジウムの内容について説明がありました。シンポジウムは「2030 へ向けた観光ホスピタリティ教育を考える」をテーマに実施します。基調講演者が大野一氏、話題提供者が村見拓一氏に決定しました。会場の関係で 2 週間前に名簿を提出しなければならないことから、申込締切を 5 月 31 日に設定しています。理事会参加者に対して申し込みをするように伝達がありました。

議事 2. 研究事業委員会：2025 年度事業計画について

研究事業委員会の鈴木委員長より、今年度の研究会と全国大会の予定が示されました。第 1 回研究会を 9 月 6 日 (土) に関東で、第 2 回研究会を 11 月 15 日に関西で、全国大会を 3 月 7 日・8 日に立命館アジア太平洋大学で開催する予定です。正式な日程は役員改選後に確定します。

議事 3. 次期理事会体制について

次期理事会検討委員の福本副会長より、進捗状況について報告がありました。次期役員には、若手を積極的に起用し、幹事の増員も図る方針です。併せて、負担分散の観点から、副会長を「2 人」から「3 名以内」に変更する旨の会則変更が提案されました。

次期会長・副会長候補について提案がなされ、その選出理由について、藤田現会長より説明がありました。

上記の点について承認されました。

議事 4. 入退会審査・報告：事務局

1 名の入会が承認されました。併せて、13 名の退会が報告されました。

＜2025 年度第 2 回理事会＞

日時：2025 年 6 月 15 日（日）11:00～12:00

リアル会場：東武トップツアーズ（W ビル）18F

オンライン会場：会議システム Zoom

出席：岩田、大串、澁谷、鈴鹿、鈴木、中井、中村、野口、福本、藤田、古本、峯俊、森越、丹治、難波、米盛、橋本

欠席：板垣、坂本、千葉、高橋

〔会長挨拶〕

〔報告事項〕

議事 1. 会務報告（各委員会・事務局より）

編集委員会の中村委員長より、機関誌第 18 号の編集状況について説明がありました。

議事 2. その他

野口理事よりツーリズム EXPO2025 が愛知県にて開催されるとの情報提供がありました。

藤田会長より本学会が協賛した国際会議（ICDES 2025）が盛会に終わったとの報告がありました。今後の Newsletter にて会議の様子を寄稿する予定です（本号に掲載）。

福本副会長より大阪万博への大学生の協力について情報提供がありました。

〔審議事項〕

議事 1. 2025 年度総会・シンポジウムについて

(1) 総会

総務委員会の古本委員長より、総会参加者および欠席者委任状数について説明がありました。リアル会場の出席予定者数は、正会員 23 名、準会員 1 名で、オンライン会場の出席予定者数は 23 名です。欠席者委任状は 55 名です。以上により総会が成立予定である旨、説明がありました。

続いて、2025 年度通常総会の次第に関する説明がありました。2024 年度一般会計収支決算書について説明がありました。会費収入の未収率が高い点が課題として指摘されました。また、グループ研究助成に関する雑収入が発生しています。「2024 年度全国大会運営費」が黒字になっていますが、これは懇親会費の請求書が年度をまたいだことから、2025 年度の決算にて処理することになったためです。橋本監事より、年会費の回収率が 80%であること、過年度分の会費収入が少ない点について、改善が必要であるとの指摘がありました。

2025 年度一般会計予算について説明がありました。2025 年度はグループ研究助成として 3 件を採択していますが、これは 2024 年度に雑収入が発生したためであり、2026 年度は 2 件にする必要があります。「全国大会（第 24 回・第 25 回）運営費」として 750,000 円を予定していますが、このうち半数程度は第 24 回全国大会の

懇親会費の支払いに充てます。

総会の議案 5 にて付議する会則の改正（副会長を「2 名」から「2 名以上 3 名以内」に変更する）について説明がありました。理事会にて改正案は了承されました。

(2) シンポジウム

シンポジウムの参加予定者について説明がありました。リアル会場では会員 28 名、非会員 2 名、オンライン会場では会員 34 名、非会員 5 名、合計 69 名が参加予定です。

研究事業委員会の鈴鹿委員長よりシンポジウムの進行について説明がありました。

議事 2. 次期理事会体制について

新役員案について新規理事会検討チームの福本理事より、選考理由に関する説明がありました。併せて、正副会長案も示されました。

議事 3. 次期理事会・研究会の予定

(1) 次回研究会の会場・内容（9 月 6 日（土）予定）

9 月 6 日（土）に予定されている研究会の会場について検討され、東武トップツアーズ社屋での開催が可能であるか、先方に打診することになりました。

(2) 臨時理事会および第 3 回理事会（9 月 6 日（土）予定）

8 月 1 日から新体制での委員会を開始するために、7 月に臨時理事会を開催することが了承されました。次期正副会長および各委員長により役員の配置を検討したうえで、メール稟議にて次期委員会体制を決定します。併せて新体制が開始する 8 月 1 日までの委員会業務については旧体制が受け持つことも確認されました。

議事 4. 入会審査：2 名の入会が承認されました。

【総会・シンポジウム報告】

2025 年度総会・基調講演・話題提供を、2025 年 6 月 15 日（日）に実施しました。今年度はリアル会場を東武トップツアーズに配置し、オンライン会場と合わせたハイブリッド形式で実施しました。

12:10 より評議員会を開催し、評議員からは今後の学会が取り組むべきテーマにつき積極的なご提言をいただきました。13:00 より総会（定数充足）を開催し、2024 年度の事業報告・決算、2025 年度の事業計画・予算、会則改正、次期役員体制について承認を得ました。

その後に約 70 名の参加者を迎えて「基調講演・シンポジウム」を開催しました。まず、大野一氏（国土交通省観光庁国際観光課専門官）より、「観光庁から見る観光教育の重要性」と題した基調講演をいただきました。次に、村見拓一氏（東武トップツアーズ教育事業推進部長／本学会特別会員）による話題提供がなされました。これを踏まえ、鈴鹿剛氏（四国大学 准教授／本学会理事）のコーディネートによるパネルディスカッションを、大

野氏、村見氏、藤田玲子氏(成蹊大学 教授／本学会会長)、福本賢太氏(阪南大学 教授／本学会副会長)、中井延美氏(明海大学 准教授／本学会理事)をパネリストに迎えて開催し、さまざまな事例を通じて、観光ホスピタリティに関わる教育が担うべき役割や育成すべき人材像について議論を深めました。基調講演・話題提供の内容は機関誌第19号に収録予定です。

「2025 年度事業計画」2025 年度総会にて承認

1. 年度内2回の全国集会開催
通常総会・シンポジウム：2025 年 6 月 15 日（東武トップツアーズ・一部オンライン）
第25回全国大会：2026 年 3 月 7 日～8 日（予定）会場等の詳細は今後決定
2. Newsletter の発行（7 月、12 月、3 月の年3回予定）
3. 機関誌の発行（第18号）
4. 全国大会発表要旨集 No. 25 の発行
5. 理事会の開催（5 月、6 月、9 月、11 月、1 月、3 月の年6回：開催方式などについては都度検討）
6. 広報委員会による活動普及（学会行事に関する SNS 更新、Newsletter 発行など）
7. 研究会の実施（9 月・11 月を予定：理事会との同時開催、対面・オンライン併用を予定）
8. J-Stage による学術情報発信（第18号発行後、第17号分を新規公開予定）
9. グループ研究助成の運用：継続2件、新規1件
 - ① 大学での「観光心理学／観光行動学」科目の現状-内容と教授法-（研究代表者・屋宜智恵美氏 [琉球大学]）
 - ② 商業科目における生徒の資質・能力開発に効果的な観光教育プログラムの研究-ケースメソッド教材の開発を事例に-（研究代表者・笠木秀樹氏 [前 宮崎産業経営大学]）
 - ③ ESG 経営を担うホテル人材育成に関する研究（研究代表者・総田はるみ氏 [横浜商科大学]）
10. 分科会制度の運用：JSTHE 観光コミュニケーション分科会、随時募集中
11. ウェブサイトの整備：リニューアル作業の完了・公開
12. メーリングリストの整備など会員への情報発信体制の強化
13. その他

「2025-2026 年度 役員体制」2025 年度総会にて承認 [会長]

中村 哲（玉川大学）

[副会長]

福本 賢太（阪南大学）

古本 泰之（杏林大学）

森越 京子（北星学園短期大学部）

[理事]

板垣 武尊（和洋女子大学）

大串 恵太（追手門学院大学）

神村 正巳（甲南女子大学）

澁谷 和樹（常葉大学）

鈴鹿 剛（四国大学）

鈴木 涼太郎（獨協大学）

田中 直子（北星学園大学短期大学部）

種村 聡子（文教大学）

千葉 里美（北海商科大学）

野口 洋平（愛知淑徳大学）

峯俊 智穂（立命館大学）

屋宜 智恵美（琉球大学）

米盛 安奈（大阪商業大学）

渡辺 幸倫（相模女子大学）

[監事]

中井 延美（明海大学）

難波 繁之（旭川市立大学）

[幹事]

有田 りな（戸板女子短期大学）

岩田 聖子（大阪医科薬科大学）

森園 奈央（東海大学）

山田 祐子（川村学園女子大学）

[評議員]

小畑 力人（大阪観光大学）

宍戸 学（日本大学）

清水 誠（中村学園大学短期大学部）

鈴木 勝（大阪観光大学）

橋本 俊哉（立教大学）

藤田 玲子（成蹊大学）

村上 和夫（立教大学）

「2025-2026 年度 委員会」○委員長、□副委員長

● 総務委員会

○大串恵太、□澁谷和樹、古本泰之、森園奈央

● 広報委員会

○野口洋平、□米盛安奈、有田りな

● 研究事業委員会

○鈴鹿剛、□峯俊智穂、神村正巳、岩田聖子
山田祐子

● 新規事業委員会

○千葉里美、宍戸学、総田はるみ

● 編集委員会

○鈴木涼太郎、□渡辺幸倫、板垣武尊、種村聡子、
中村哲、朝倉はるみ、坂本健成

● 国際化推進委員会

○藤田玲子、□森越京子、田中直子、屋宜智恵美、
エデルヘイム ヨハン

【国際化推進ワーキンググループ報告】

2025年5月8日から11日にかけて、北海道大学にて ICDES(International Conference on Destinations, Events and Sports)の第1回国際大会が開催されました。JSTHE は本大会の開催を後援し、広報活動や研究発表セッションの司会進行などのサポートを行いました。会期中はJSTHE より6名の会員が参加し、個人または共同による英語での研究発表を合計5件行いました。4日間にわたる大会では、著名な研究者による講演やシンポジウム、研究発表やディナーパーティー、エクスカージョンなど充実したプログラムが連日展開されました。日本国内のみならず、海外からも多くの参加者が集い、国際大会ならではの活発な論議と交流が繰り上げられる中、参加者一同にとって非常に有意義な時間となりました。

【観光コミュニケーション分科会報告】

観光コミュニケーション分科会では、2024年度に有志のメンバーがホスピタリティとコミュニケーションをテーマとして、書籍の執筆に取り組みました。本書には、本学会より頂いた助成金を活用して進めた研究成果も含まれており、2025年3月に晃洋書房より「ホスピタリティ・コミュニケーション—満足を生む観光人材になるための基礎知識」として刊行の運びとなりました。ここに紙面をお借りしてご報告申し上げるとともに、御礼を申し上げます。本書は、言語学およびコミュニケーション教育を専門とする9名の著者らが、ホスピタリティを提供するために重要な要素となるコミュニケーションについて、様々な視点から解説をしている一冊です。教育現場でテキストとしても活用できるような構成になっています。この分野にご関心をお持ちの方は、ぜひご覧いただければ幸いです。

観光コミュニケーション分科会では、引き続き観光とコミュニケーションについての研究活動を進めていく予定ですので、ご興味のある方はぜひご参加下さい。

【新規事業委員会】

2025年度のグループ研究助成は、審査の結果、次の2件の研究を採択しました。

① 新規申請による採択:1件(2025.4.1-2027.3.31の2年間)

研究テーマ:「ESG 経営を担うホテル人材育成に関する研究」

採択者: 総田 はるみ氏 (横浜商科大学) ほか3名

② 昨年度単年度で申請され、今回継続申請として採択:1件(2025.4.1-2026.3.31の1年間)

研究テーマ: 大学での「観光心理学/観光行動論」科目の現状—内容と教授方法—

採択者: 屋宜 智恵美氏 (琉球大学) ほか3名

【広報委員会】

広報委員会では学会公式ウェブサイトに加え、学会公式Facebook ページ、学会公式X を運営しています。本学会の活動や予定について、これらのメディアを活用して情報発信を行います。ぜひご活用ください。また、本学会では新規会員を募集中です。特に、観光ホスピタリティ教育に関心を寄せる大学院生と実務家の入会を促進しています。手続き等について詳しくは公式ウェブサイトをご覧ください。

観光・ホスピタリティに関連する学校や団体に向けて、本学会の全国大会や研究会、各種イベントの情報を配信しています。配信先となる学校・団体等がございましたら情報をお寄せください。

【献本紹介】

事務局宛に以下のとおり献本がございましたので、ご紹介致します。

藤田玲子編著、総田はるみ・加藤好崇・田中直子・中井延美・林千賀・宮本節子・森越京子・渡辺幸倫 (2025): ホスピタリティ・コミュニケーション—満足を生む観光人材になるための基礎知識。晃洋書房 [すべて本学会会員]

観光の現場で必要な英語・日本語のコミュニケーションや異文化理解の理論と実践をやさしく解説 (晃洋書房ウェブサイトより引用)

山上徹 (2025): 石川能登一里山里海の観光振興。鳥影社 [本学会名誉会員]

能登の里山里海は日本らしい原風景や豊かな食文化、祭、年中行事、さらに、伝統工芸の宝庫。令和6年元日、能登半島に「千年に一度」の大地震が襲った。その復興には観光振興が必須課題。拍車する高齢化、人口減少の被災地・能登地方は「一周遅れのトップランナー」

温故創新の発想をもって「能登の創造的復興を紐解く！」

(鳥影社ウェブサイトより引用)

【事務局からのお願い】

事務局へのメール送信は「jimu@jsthe.org」にお願いいたします。

メーリングリストは「info@jsthe.org」というアドレスから配信しておりますが、誤返信防止のためこのアドレスには事務局以外は送信出来ない仕組みとなっています。そのため info@jsthe.org 宛に送信（返信）されたメールは、事務局でも内容を確認することができません。お間違えのないようお願い申し上げます。

【編集人より】

ニューズレターでは、会員の皆さまから提供された観光ホスピタリティ教育の情報や書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍(定期刊行物を除く)を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

編集・発行人：米盛安奈（大阪商業大学）

E-Mail : oshimaan@daishodai.ac.jp

【学会 SNS アカウント】

Facebook

<http://www.facebook.com/jsthe.org/>

X

<https://x.com/JSTHEducators>

